

シグマ研究委員会幹事会議事録

日時 昭和46年1月29日(金) 10.00~15.00

場所 日本原子力研究所本部第1会議室

出席者 百田, 飯島, 五十嵐, 中島, 森田, 桂木, 西村

議事

1) 46年度実行予算案を次のように作成し, 本委員会に提案することになった。

a 委員会運営費: 180万円

- o 旅費 85万円
- o 会議費 15 "
- o 人件費 65 "
- o 印刷費 15 "

b 計算依頼費: 820万円

- o 熱中性子文献調査 0
- o ファイル用核データの作成 140
- o 核データ格納, 利用 70
- o FFP核データの評価 140
- o 測定データのプロット 120
- o 標準断面積の評価
- o FFP炉定数の作成 140
- o 炉定数の評価と作成 150
- o 機械的評価 60

2) 46年度委員候補案の検討を行った。

3) BNLセンターとの交流について, 桂木氏が交渉に行く予定である。この件に関し, 各委員の意見を聞くため, 次回案内状に予告することになった。また各専門部会においては, 2月上旬に世話人会を開いて相談するこ

とになつた。

- 4) 委員会の最優先事項として、核データの評価の仕事を活発にやつてもらいたいという委員長の発言があつた。

また高速炉用FP関係の仕事は、国際的にもまだあまり行われていないので、これを委員会のmain workとして承認したらとの意見もあつた。

- 5) 評価済みデータは出来次第ファイルにしまうこと。これに関連してFormatの議論があつた。ENDF/AとBとの特徴は

A: 国際的なきめ方、入れ易い、しかしindexが複雑

B: あとの処理を考えている。1核種、1本の曲線などである。

- 6) 核データの格納、利用(とくにNEUDADAシステム)について

o 入れものだけつくつても意味がない。

検索はCCDNに依頼すればよい。

入手したデータは、取っておかなくてもいい、データは必要があればその都度CCDNに要求すればよい。

など委員長から発言があり、これに対して討議した結果

i) 内容を完全にすることは至上命令ではない。

ii) 内容が完全であると誤解されたいようにする。

という条件で行なうことになつた。